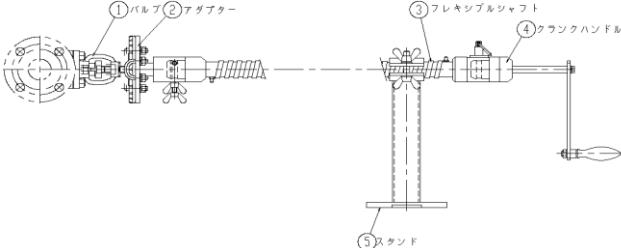



変更前の機構/構造説明	変更後の機構/構造説明
<p>発電所に代表されるプラントには多くの配管が走り、様々な位置にバルブが設置されている。開閉頻度の高いバルブについては電動化により省力化がなされているが頻度の低いバルブは手動弁でありその開閉作業に多くの労力、時間を要している。また、バルブ設置位置によっては危険度が高い場所での作業となっている。</p>  <p>図1 ユニハンドラー概略図</p>	<p>対象弁にアタッチメント、フレキシブルシャフトを連結することにより遠隔操作（安全なポイントでの）が行え労力、時間も大幅に軽減できる。この場合、駆動本体を使用することも手動にて操作することも可能でありエクステンション操作が容易に行えます。</p>  <p>写真2 フレキシブルシャフト連結例(10m×4本) フレキシブルシャフトを4本繋ぎ(40m)、手動にて弁開閉を行う。</p>

(1) 装置・機器の概要説明（手動操作）

- ①クランクハンドル (駆動本体があれば代用できる)
- ②フレキシブルシャフト F-18A
- ③アタッチメント AM-60
- ④AMアダプター
- ⑤アタッチメント廻り止め金物（スタンド式ステーパイプ）
- ⑥クランクハンドル固定金具

(2) 変更前の問題点

- ①対象弁位置が危険箇所であり開閉が非常に厄介かつ労力を要していた。
- ②非常時における開閉作業ポイントと時間の短縮を改善したい。

(3) 変更後の利点

対象弁にフレキシブルシャフトを連結することで、作業ポイントにて開閉可能となり労力、時間を大幅に軽減できた。